

子育て支援コーナー

なかよし保育園子育て支援センター(☎96-4551・FAX22-9881)

★親子教室

- 1歳6カ月～2歳5カ月 7日(火)・14日(火)
- 2歳6カ月以上 21日(火)・28日(火)

★すくすく赤ちゃん

- ネンネ・寝返りグループ 2日(木)・9日(木)
- ハイハイ・ヨチヨチグループ 16日(木)・30日(木)

★ツインズ・デー 17日(金)

★マタニティおしゃべり広場 16日(木)

すくすく赤ちゃん(ネンネ・寝返りグループ)との交流
いずれも午前10時～11時30分 費用無料、申し込み不要

市子育て支援センター(はまなす保育所内☎・FAX24-1260)

★あそびの広場

年齢別グループで、ふれあい遊び・工作などをを行います。
指導員と一緒に親子で楽しく遊びませんか。

- 0歳～1歳半 2日(木)・17日(金)
- 1歳半～2歳 10日(金)・24日(金)
- 2歳～2歳半 1日(水)・15日(水)・30日(木)
- 2歳半～3歳 8日(水)・22日(水)
- 3歳～3歳半 14日(火)・28日(火)
- 3歳半以上 7日(火)・21日(火)

いずれも午前10時～11時 費用無料、申し込み不要
(受付時間は午前9時30分～9時50分)

★ふれあいサロン

主任児童委員さんと楽しく遊びましょう。

16日(木) 午前10時30分～11時30分

(受付時間は午前10時～10時20分) 費用無料、申し込み不用

中央児童館(☎・FAX23-7406)

★たのしいおやつづくり

“たのしくおやつをつくってたべてみませんか！”

11日(土) 午前10時～正午

対象：小学校3年生～6年生(定員20人)

持ち物：三角巾、エプロン、おしぼり

費用：材料費 300円(おやつ+飲みもの代)

☎ 10日(金)まで電話にて

河北子育て支援センター(飯野川保育所内☎61-1601・FAX62-2359)

★あそびのひろば

支援センターに来て遊びませんか。木の葉や落ち葉を使っ
たいろいろな遊びを、一緒に楽しみましょう。

(毎週月・水・木曜日、利用時間：午前10時～11時30分)

15日(水)は栄養指導(栄養士による講話)

★子育てひろば

<今月の予定は>(実施時間 午前10時～11時30分)

7日(火) 成田、飯野川、旧屋敷、五味、元相野谷(河北子育て支援センター)

10日(金) 北境、東福田(北境老人憩の家)

14日(火) 辻堂、三輪田上・中・下(河北親林交流館)

28日(火) 長面、尾の崎(長面老人憩の家)

以上の地区の方を対象に各会場に伺います。多くの方の参加をお待ちしています。

河南子育て支援センターパプラ(☎・FAX72-4670)

★わいわいサロン

(2人の指導員と親子で遊びましょう。申し込みは不要です。)
農村環境改善センター2階(パプラ) 午前9時30分～11時30分

● 0・1歳親子

7日(火) 絵本の読み聞かせ 14日(火) 制作『まつぼっくり剣玉』
21日(火) タオルであそぼう 28日(火) パネルシアター

● 2歳以上親子

- 2日(木) サロントーキング
- 9日(木) おばあちゃんの読み聞かせ
- 16日(木) 制作『まつぼっくり剣玉』
- 30日(木) パネルシアター



親子の上靴・飲み物・着替えなどをお持ちください。

★でんわ相談・来所相談・・・ひとりで悩まないで!(月～金)

★サークル活動支援(月・水・金曜日)

- | | | |
|-----|-------|---------------------|
| 月曜日 | 第1・第3 | ワハハくらぶ(北村) |
| 月曜日 | 第2・第4 | もしもしかめさん(アレルギー) |
| 水曜日 | 第1・第3 | ひまわり(和渕) |
| 水曜日 | 第2・第4 | かのまたカントリーキッズ(鹿又) |
| 金曜日 | 第1・第3 | げんきっず(広渕)みのりっこ(前谷地) |
| 金曜日 | 第2・第4 | どんぐり(須江) |

パプラは、主に河南地区の子育て自主サークルを支援しております。サークルへのお問い合わせや参加希望のかたは、パプラまで。

桃生地区子育て支援事業(桃生保健センター☎76-3360)

★遊びの広場

ところ 桃生保健センター

1日(水)、8日(水)、15日(水)、22日(水)、29日(水)

ところ 桃生文化交流会館(☎76-3418)

4日(土)、11日(土)、18日(土)、25日(土)

※いずれも午前9時30分から

★親と子の遊びの広場出前事業

ところ 永井いきいき交流センター

とき 21日(火) 午前9時30分～

★子育て電話相談 7日(火) ☎76-3360

対象者 どなたでもご相談できます。

相談内容 子育てに関すること

北上地区ひまわり子育て支援

★ひまわりキッズ 午前10時～11時30分

ところ 北上保健センター(☎67-2301)

8日(水)・15日(水)・22日(水)・29日(水)

ファミリーサポートセンター “ただいま会員募集中(石巻市ファミリーサポート事業)”

「ちょっとの時間、子どもを預かってほしい」「保育所のお迎えをお願いしたい」と思っている方、「子どもが大好きだから、子育てのお手伝いをしたい」「何か人の役にたつことがしたい」と考えている方、「石巻市ファミリーサポート事業」の会員になりませんか。本事業は9月からサービス開始し、会員も着実に増えています。少しでも関心をお持ちの方はファミリーサポート事務局にお問い合わせください。

会員資格：石巻市在住の方

利用会員：概ね生後2カ月から小学校3年生までの子どものいる方

協力会員：20歳以上の健康で自宅で安全に子どもを預かることができる方

両方会員：利用会員と協力会員の両方を兼ねる方

※また、事業説明会を次のとおり開催します。

11月7日(火) 遊楽館

11月8日(水) ビッグバン

11月10日(金) 中央児童館 ※時間はいずれも午後7時～8時

※なお、協力会員になるための講習会を次のとおり開催します。

と き 11月18日(土) 午後12時30分から4時まで

と ころ 石巻文化センター

内 容 子どもとの関わり方遊び方・病気とケガ・事業概要について

申し込み 中央児童館まで会員申込書を郵送。

〒986-0832 石巻市泉町一丁目1番2号

会員申込書の配布場所 中央児童館・各総合支所保健福祉課

☎ ファミリーサポート事務局 ☎23-7407

表紙から

10月10日、前谷地小学校で恒例の稲刈りの体験学習が行われました。5年生20人が学校西側の水田に植えた黒米、緑米など古代米5品種の稲を刈り取りました。今日で3日目とあってカマを上手に使って手際よく刈り取っていました。子ども達は食糧の大切さや生産の過程を勉強していました。

(シュウ)

編集後記

短い夏が終わりを告げて「天高く馬肥ゆる秋」になり、馬並みの食欲を抑えきれずにお腹のベルトの穴が残すところあと1つになってしまいました。
冬になれば、カキなどの魚貝類やキムチの鍋がいいですね～

冬眠前のクマのようにエネルギーをたくわえて、市民の皆さんに愛される市報目指してガンバリマス！今夜は、今が旬のカキフライかなあ～ (キム)

石巻の人口と世帯数

平成18年10月1日現在
()内は昨年同月比



法印神楽の特質と宗教性

石巻市文化財保護委員 小野寺 正人

法印神楽とは、石巻地方と登米、本吉、気仙地方に伝えられてきた神楽で、法印は修験(山伏)を指す呼びかたです。元来、修験とは、諸国の深山幽谷での修行を目的とする「回国の徒」であったのですが、江戸時代に各地の村々に定着し、神社などに関わり、加持祈禱を行うようになった者達のことです。

法印神楽は舞手と胴(太鼓)、笛、ドウバツシ(手擦鉦)などの楽器からなり、演ずるためには少なくとも十人余りの法印を必要としました。法印神楽が成立した時期ははっきりしないものの、修験が各地に定着してからと考えられます。

雄勝町大浜の、羽黒派修験市明院文書によれば、元



▲和瀨法印神楽(日本武)

文四年(一七三九)には演じられていたことは確かです。江戸時代の中頃には、各地に神楽集団がまゝりまゝりでしたが、牡鹿地方には、「牡鹿十か院」と呼ばれた神楽集団があつて、それぞれ得意とする舞を持ち、親から子へと引き継がれました。安永五年(一七七六)七月の「和瀨村風土記御用書出」に載っている、和瀨神

社の項に、「別当村籠岩寺(当山派修験)祭日九月九日/右祭日隣村之修験相集湯之花を拜神楽を仕来申候」とあり「神楽座」が存在していたことが伺えますが、注目すべきは「湯立」をしていたことです。「湯之花」は、湯立のことで、神楽の前に湯釜の熱湯を笹竹で振り掛けて、舞台、諸道具、舞手はもちろん、見物衆までも被い清めたのです。法印神楽の舞台は、四方に「忌竹」を立て、注連縄を回し、松竹梅の樹木や蕪などの野菜を切り抜いたキリコ(切り紙)を下げ、天井に大乘を設置したものです。「大乘」とは、仏教の天蓋のことです。このように、清められた、荘厳で聖なる空間に神を迎え、神楽を演じたのです。神楽は、神話を演目とし、舞には修験道の反閤(踏足)、指で形を作る印契(印相)などを取り入れています。演目は、先ほどの「市明院文書」では『大乘神楽十八番』という言葉が出てきており、河北地区皿貝の大靈日神社の「神楽番数奉納額 慶応元年(一八六五)」には、十九番の演目が墨書されています。神楽の最後には、獅子による舞台清めが行われ、打ち鳴らしの胴で「神送り」をしました。祭りでは、一度迎えた神を、改めて送り出さなければなりませんでしたが、法印神楽でも同じような場面がありました。また、神楽を見物した人々が、大漁や海上安全を託して、舞台を飾った旗を持ち帰り、供えた餅をいただき、安産祈願をするなどといった風習は、神楽が、当初、宗教的な行事として始まったということが拠つていると考えられます。

子育てアドバイス① ★★★★★

子どもの心に寄り添う

中央児童館館長 高橋 栄子

赤ちゃんが誕生したときに、健やかに元気に育ってほしいと願いつつ子育てが始まります。しかし、日々成長するうちに親は色々な子育ての悩み、不安が生じてきます。連日報道される子どもへの虐待、かと言えれば自ら命を絶つたり、友達や親の命まで殺めてしまつたりする数々の事件、生命軽視の悲しい事件が報道される度に心が痛みます。

今、子どもの心にどんな変化が起こっているのでしょうか。子どもを取り巻く環境も危険や不安が多く、ストレス社会の中で生活している子どもたち、そのストレスが様々な心の歪みへと変化することもあるのではないのでしょうか。だから、子どもに関わる周囲の大人が、子どものストレスや不安に気づき、子どもの心を丸ごと受け止めてあげることが大事です。

そして、なぜこうなのだろうか?その行動をとったときの子どもの気持ち、子どもと接する自分は、そのときどうだったのか・・・などと振り返ってみれば、子どももより自分がイライラしていた・・・とか、子どもの気持ちを無視して、またか・・・と思い、ただただしかり続けている・・・などと色々と気づくことがあるはずですよ。

その気づきが大切です。そうすれば、子どもが発信している「不安サイン」が理解できるのです。それが、子どもの心に寄り添うこととなるのです。かつて子育ては母から娘に伝授される家庭教育でしたが、今は核家族化で、孤独感の中で子育てをしている人が多いです。だから、育児サークルの仲間相談したり、色々な相談機関を利用したりして心を軽くすることがとても大事です。子育ての心を軽くすることで、子育ての不安も解消され、子どもの心に寄り添えるようになるのです。地域社会の中で、温かく子どもたちを見守り、子どもたちを悲しい事件の主人公にさせない社会でなければなりません。